

子どもが安心して、学校に行きたいと思える毎日を ⑨

城見小学校では、就学前教育の推進に伴って、昨年度から城見保育所との連携教育に取り組んでいます。そこで、入学した1年生が保育所での幼児教育から小学校教育へスムーズに移行できるようにするための「スタートカリキュラム」を作成しました。

この「スタートカリキュラム」をもとに、1年生の入学からの取組を紹介します。

学びの連続性①

生活科「きれいにさいてね」

スタートカリキュラムを作成するに当たって、大切な2つの視点があります。一つは、「学校生活への適応」で、もう一つは、「学びの連続性」です。

保育を参観して初めて知ったことの一つに、年長児も「アサガオ」を一人一鉢で育てる経験をしているということがあります。1年生になってからも、同じ植物を同じように育てるのでは、子どもたちのモチベーションも上がりません。もちろん小学校独自の生活科の学習として、成長の観察記録をとっていきますが、子どもたちの興味関心を大切にするなら、どうすればいいのか、昨年度の夏期休業日に小学校の職員で話し合いました。

話し合いの結果・・・

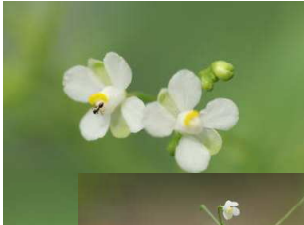


年長児

1年生

「アサガオだより」を作ったり、押し花にしてしおりを作ったり、茎を使ってリースを作ったり・・・して、活動のゴールを保育所での経験と替えて設定する。

アサガオのように成長が分かりやすい別の植物を育てる。



という案が出ました。そこで、今年度は「フウセンカズラ」を育てることにしました。

フウセンカズラは、暑さに強く夏にどんどん成長し、アサガオと同じようにつるを伸ばしていきます。また、風船状の果実ができ、育ててきた感動をより強く実感できます。

5月中旬に植えてから、ほんの少し芽が見えてきただけで1年生の子どもたちは大騒ぎ。「みどりが出てきた～」「ぼくは、2こ出てきた～」と口々に自分の鉢の報告をしてきてくれました。

アサガオと比べて不都合なことがあるかどうかよく見極め、今後、子どもたちの初めて出会う発見の感動につながっていくかどうか検証していきたいと考えています。

体育科「水遊び」

城見小学校では、昨年度の夏期休業日に全教職員が保育所を訪問し、保育を参観させていただきました。保育所では、「プールでの約束」を徹底し、安全面にとっても配慮していたことが印象的でした。また、水が苦手な子への温かいかかわりの中で、顔つけができるようになった場面もあり、1年生の水遊びの指導や活動内容について見直す契機となりました。



年長児の頃の水遊び



昨年度、現1年生担任が年長児の保育を参観した際の水遊び



今年度の1年生の水遊び

こうした保育所での指導の上に、1年生としての指導内容をどうつないでいくのかを明らかにして、プール指導に臨んでいます。